



神話の国へようこそ

皆さんは日本神話に興味がありますか？科学の時代に神代の話なんてとおもいでしょうが、未だ TVなどで神様の名前や話が話題になるということは、侮れない一般教養の事柄のようだ。詳しく知らない人のために、新年初めのトリビア(くだらない知識・雑学)を紹介しよう。

日本神話は「古事記」「日本書紀」や「風土記」に記されているものを基にしている。

「神代」とは神々が活躍した時代(神話の世界)で、初代神武天皇が即位する紀元前 660 年 2 月 11 日以前を指す。古代人は、世界は神々が住む天上界を「高天原」、地上の人間が住む場所を「葦原中国＝日本」、地中であって死者の住む「根の国、黄泉」の 3 つにわかれていると考えていた。<国生み>太古の昔、天と地が動き始めた時、天上の高天原には多くの神々が生まれ、最後に生まれたのが伊邪那岐命(イザナギノミコト)と伊邪那美命(イザナミノミコト)の兄妹神。天の神々は二神に「海に漂う地上を固めよ」と命じ、天沼矛(あめのぬぼこ)を授けた。二神は天浮橋(あめのうきはし)という地上へ通じる道に立ち、矛を使って混沌とする大地をかき混ぜると、矛から塩が滴り落ち、それが大地に積もってオノノ島ができた。二神は島に降り、結婚。大八島国(オオヤシマノクニ＝日本列島)を完成させた。<黄泉の国>国生みの後、二神はそこに住む海の神や山の神、田の神など多くの神々を産んだが、火の神を産んだ時にイザナミは火傷を負って死んでしまう。イザナギは恋しいイザナミに会いに黄泉の国へ行き、連れ戻そうとするが失敗。“決して姿を覗くな”という約束を破り、腐ってウジがわき、蛇の姿をした 8 柱(柱＝神を数える単位)の雷神がまとわりつく醜いイザナミの姿を見てしまったイザナギは慄き、追手を交わし逃げ帰る。イザナギは黄泉の穢れを祓うために禊をする、そこから多くの神々が生まれた。最後に左目を洗うとそこから天照大御神(アマテラスオホミカミ)が、右目を洗うと月読命(ツクヨミノミコト)が、鼻を洗うと須佐之男命(スサノオノミコト)が生まれた。尊い三柱の誕生に喜んだイザナギはアマテラスに太陽神として高天原を、ツクヨミには月神として夜の国を、スサノオには海原を治めるよう命じた。スサノオは命を聞かず、母のいる黄泉の国に行きたいと泣き叫ぶと、青山は枯れ、海川は干上がり、悪神が湧き起こり、災いが起こった。イザナギは怒ってスサノオをこの国から追放する。<天岩戸>スサノオは黄泉の国に行く前にアマテラスに挨拶に行った。スサノオが高天原に上って行くと、山川はとどろき、大地は揺れ動いた。アマテラスはスサノオが高天原を奪うために来たと誤解し武装する。スサノオは誤解を解くための賭けをする。それは互いの持ち物から神をだし、その神が男なら「悪心あり」、女なら「悪心なし」を占うもの。結果、アマテラスの勾玉の髪飾りからは五柱の男神が、スサノオの剣からは三柱の女神が生まれ潔白を証明した。しかし、賭けに勝ったことで調子に乗ったスサノオは悪ふざけをする。怒ったアマテラスが天岩戸に引きこもってしまい、世界は闇となる。困った神々は一計を案じ、宴会を催す。天宇受売命(アメノウズメノミコト)が裸踊りをすると神々は大笑い。外の騒ぎを不思議に思い岩戸から覗いたアマテラスが女神に尋ねた。女神は「貴方様より尊い神が現れたので喜んでるのです」と言って鏡を見せた。アマテラスが鏡を覗こうと岩戸を開けた瞬間、引きずり出され、世界は光を取り戻した。<ヤマタノオトヲ退治>高天原から追放されたスサノオは唯一食べ物振舞ってくれた大気津比売神(オホケツヒメノミカミ)を殺した。ごちそうが男神の吐物や排泄物と知ったからだ。すると男神の体から稲、粟、小豆、麦、大豆が生え、蚕が生まれた。男神は何事もなかったように米を食べよう勧め、米を食べたスサノオは粗暴さがなくなり、優しく賢い神となった。これらの穀物の種をもらい受け、地上に広める旅に出たスサノオは出雲に降り立つ。そこで八岐大蛇(ヤマタノオトヲ)に娘を食われた老夫婦に出会う。スサノオは最後に残った娘、櫛名田比売(ウズナタヒメ)との結婚を条件にヤマタノオトヲ退治を引き受けた。スサノオは娘を櫛に変え、髪にさし大蛇から隠した。老夫婦に強い酒を作らせ、八つの門を作り、それぞれの門に酒を満した酒瓶を置いた。思惑通り、スサノオは、夢中で酒を飲んでいる大蛇の首と尾を次々と斬った。大蛇の尾から剣がでてきた。剣(三種の神器の草薙剣)はアマテラスに献上する。<国譲り>葦原中国はスサノオの子孫で、因幡の白兔で有名な大国主(オホクニヌシ)が治めた。高天原の神々は、葦原中国を統治するのはアマテラスの子孫だとし国譲りを迫る。大国主は抵抗するが、高天原に届くような壮大な宮殿(出雲大社)の建設を条件に退く。<天孫降臨>アマテラスの長男が放棄したため、孫の邇邇芸命(ニギハヤヒノミコト)がアマテラスより三種の神器(天皇の証し＝勾玉、鏡、剣)を授かり、日本の統治者となった。ニギハヤヒの子が海彦・山彦。山彦と海彦の子が結婚し、神倭伊波礼彥命(カムヤマトイワレヒコノミコト＝神武天皇)が産まれた。



2013.2.1 発行
第 100 号



スカーレット

待望の大河ドラマ「八重の桜」が始まった。好評なスタートにホッとするが、いきなりアメリカの南北戦争やゲティスバーグのリンカーンの有名な演説「人民の、人民による、人民のための政治……」が映った時には「なんで？」と首を傾げた。プロデューサー曰く“時代が大きく動く”という表現を伝える手段として、会津戦争(戊辰戦争 1868～1969 年)と同時期に国を二分する南北戦争(1861～1865 年)は解り易いのではと考えたそうだ。北軍の圧倒的な兵力(兵士の数と近代兵器)に負けた南軍は会津藩と重なる。用済みの北軍の兵器を官軍が大量に輸入、戊辰戦争で使用されたというからの得ている。南北戦争シーンのロケ地はラピアで、4 月に公開されるスピンオフ監督の映画「リンカーン」の撮影に使った場所だそう。失敗は許されないとあって、NHK の必死さがわかりえよう。偶然はあるもので、ハク新聞 100 号のコスプレは絶対これしかない決めていたのが、南北戦争を背景に気性の激しい南部娘の波瀾の半生を描いた 1939 年の映画「**風と共に去りぬ**」。スカーレットと八重の人物像も重なる。原作者のマーガレット・ミッチェルはクレーク・ゲブルをイメージして書いたというのでレット・パトラー役はすぐに決まったが、スカーレット役はなかなか決まらず、ヒロイン未定のままあの有名なアラン・タタ上へのスペクタクルシーンが撮られた。その時、カメラテストを受けに来たイギリス女優のヴィヴィアン・リーを紹介されたプロデューサーは炎に照らされる彼女の横顔を見て、スカーレットだと思ったそうだ。壮大なスケールで描くテクニカルカラーの長編映画を上海で見た映画監督小津安二郎は国力の違いに驚愕したという。興業収入は今のレートにすると世界 1 位。アカデミー賞 9 部門を受賞し、今でも世界のどこかで上映されている。日本では開戦間近だったので延期になり、初上映は 1951 年。スカーレットといえば白地に緑の花模様のドレスが思い浮かぶ。インパ外あるこの衣装は「スカーレット・ルック」といって、コピーが当時の女性の間で流行した。



芳賀家ライブラリー 愛すべき読者が「昨年の読書本の中でベスト1です」と年賀状に書いてきた本を早速読んだ。優秀な弟を持った駄目男が源氏物語の世界にタイムスリップ。内容を知っている強みで、陰陽師として自分の居場所を確立していく話。悪魔は知性と政治眼をもつ光源氏の父桐壺帝の正妃。ややこしい色恋話ではないので面白かった。